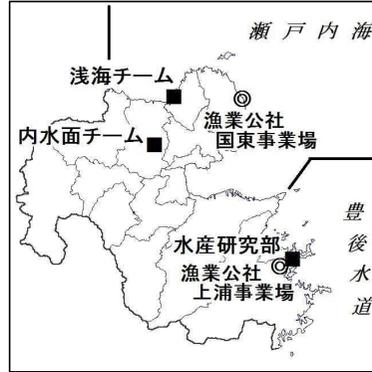


## 水産試験研究体制及び種苗生産体制(漁業公社)の見直しについて

### 水産試験研究体制の現状と課題

- (1) 水産研究部(佐伯市上浦)
  - ・豊後水道の水産試験研究を所管(疾病対策は全海域)
  - ・本館老朽化(S44築)
  - ・ブリ、ヒラマサ完全養殖技術開発
- (2) 浅海チーム(豊後高田市呉崎)
  - ・瀬戸内海の水産試験研究を所管
  - ・クルマエビ、カキ養殖等の疾病対策の迅速化(現行は上浦で対応)
- (3) 内水面チーム(宇佐市安心院)
  - ・県下全域の内陸部の水産試験研究を所管
  - ・本館老朽化(S42築)
  - ・業務の中心がドジョウ等の養殖技術開発から現地での魚病診断、指導等に変化



### 種苗生産体制(漁業公社)の現状と課題

- (1) 運営面
  - ・国東事業場の老朽化(S46築)
  - ・H24、25収支赤字になるも、マダイ等不採算魚種の生産中止等業務の見直しによりH26から黒字転換
- (2) 生産者ニーズ
  - ・生産者の要望に応じ、採算性が高い以下の魚種を生産
    - ①民間や他県ではほぼ生産していない魚種(ヒラマサ、マコガレイ等)
    - ②本県への安定供給が困難な魚種(クルマエビ、ガザミ、アワビ等)
- (3) 技術面
  - ・豊後水道と瀬戸内海では水温変動や生息魚種が異なることから、国東と上浦でそれぞれの海域に適した魚種を生産

### 今後の手順・スケジュール

- ・外部有識者による水産研究施設等総合検討委員会(県漁協、河川漁協、市、研究機関等関係者で構成)の意見を聞きながら、研究及び種苗生産体制を一体的に検討
- ・施設の統廃合、移設などあらゆる選択肢を想定し、比較検討

#### ■ スケジュール

- ・H28.11 水産研究施設等総合検討委員会設置
- ・H29年度 行財政改革推進委員会等での協議を経て方針決定

| 機関                 | 整備年度  | 見直し選択肢  |
|--------------------|-------|---|
| 水産研究部<br>(佐伯市上浦)   | S44   | ①維持<br>②移設<br><br>※維持の場合、老朽化施設は改築が必要<br>移設の場合は、土地の確保と新たな施設整備が必要 |
| 浅海チーム<br>(豊後高田市呉崎) | H17   |   |
| 内水面チーム<br>(宇佐市安心院) | S42   |   |
| 漁業公社国東事業場          | S46   |   |
| 漁業公社上浦事業場          | H9-10 |   |